

てをつなごう

ねらい 友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ。

「手話」という方法があることを知る。

ここは、マンションの真ん中にある「ひまわり公園」です。「ひまわり公園」の周りにはお花がいっぱい植えてあるので、いつもたくさんの人たちがやってきます。

今日も、子どもたちのにぎやかな声が聞こえてきます。

仲よしのまみちゃんたち3人はおかあさんと一緒に公園にやってきて、

「ピクニックごっこ、しよう。」

と、砂場で遊び始めました。

「私、まぜご飯作っているの。」

「私はデザートプリン、作

るわ。」

3人で楽しそうに話しながら、ピクニックごっこに使うごちそうをつくっています。



まみちゃんたちは見慣れない子がいることに気がつき、

「ねえ、ねえ、なんていう名前。」

と、聞いてみました。でも、女の子は何も答えず、砂をスプーンですくって、カップに入れていきます。

「あれ、耳に何をつけているの。」

やはり、女の子は何か言いたそうな顔をしましたが、だまっただま作ったプリンを持っておかあさんのところへ行きました。そして、向かい合って、食

べるまねをしたり、指を丸めたり広げたり、くるくる動かしたり、何だか楽しそうです。

「何しているのかな。」

「手遊びしてるのかな。」

3人はその様子を不思議そうにじっと見ていました。

家に帰ったまみちゃんは、
「今日、砂場で、耳に何かをつけて、遊んでいた子がいてね。話しかけても何も答えてくれなかったんだ。」



と話すと、おかあさんは、

「あ、引っ越してきたじゅんちゃんのことね。じゅんちゃんのおかあさんから聞いたんだけど、お話しや音が少しでも聞こえるようにする補聴器というものを耳につけているんだって。でもね、聞こえにくくても、身振り手振りや、口の動きを見ると何を言っているのかすぐわかるようよ。だから、顔を見てゆっくりお話すれば友だちになれるよ。」

と、教えてくれました。

と、教えてくれました。

次の日、まみちゃんたちは公園の隅にあるクローバー畑で、花を摘んでから砂場へ行って、ごちそうを作り始めました。じゅんちゃんも昨日と同じように、カップに砂を入れて遊んでいます。

まみちゃんは、じゅんちゃんの肩をトントンとたたき、

「お花 あげる。」

と、顔を見て言いました。

じゅんちゃんはびっくりしたように、まみちゃんを見上げました。そして、まみちゃんからお花をもらい、うれしそうです。一緒にお皿の上に並べたり、ちぎってふりかけにしたりして遊びました。

「ごちそうできた。またピクニックに行こう。」

「ピクニック、ピクニック、ランランラン。」

3人は歌いながらバスケットにごちそうを詰めました。

「ねえ、ねえ、じゅんちゃん、ピクニックに行こう。」

まみちゃんは肩をたたいて誘いました。

「クローバーの花摘みできるところを教えてあげるよ。」

クローバー畑に着くと、

「おかあさんにプレゼントをしようよ。」

と、花摘みを始めた3人の様子を見て、じゅんちゃんも摘み始めました。

「かわいいね、この花。」

摘んだ花を見せ合って、4人はニッコリ！そして、持ってきたお弁当やケーキを囲んで、みんなでピクニックごっこをしました。

「明日もピクニックに行こうね。」

4人は手をつないで砂場に戻りました。その様子をじゅんちゃんやまみちゃんのおかあさんたちは、笑顔で見っていました。じゅんちゃんの顔もニコニコしています。

じゅんちゃんは摘んできたクローバーの花束をおかあさ



んに渡して、おかあさんの顔を見ながらうれしそうに手や指を動かしています。

それを見ていたまみちゃんたちは「何をしているんだろう。」と思い、「何、してるの。」

と、聞きました。すると、じゅんちゃんのおかあさんは、「手話というお話の方法があってね、手を使ってお話するのよ。」と、教えてくれました。

「私も手話、やってみたい。」

「ねえ、ねえ、教えて。」

「それじゃ、同じようにやってみてね。」

じゅんちゃんのおかあさんは『ありがとう』と『明日も遊ぼうね』を教えてくれました。

まみちゃんたちはじゅんちゃんと一緒に、教えてもらった手話を何度も何度も繰り返し、顔を見合わせて微笑みました。

ありがとう



左手の甲に右手を垂直にのせ、顔を起こすとともに、右手を顔の前に持ち上げる

あした



人さし指を顔の横から前へ出す(1日後を表す)



あそぶ



人さし指を頭の横で交互に前後させる